

こどもヒアリング 実施概要

第9回 こどもの居場所部会

令和5年9月22日(金)

資料5

こどもまんなか
こども家庭庁

目的

どのような場を居場所と感じているのか、またその場に何を求めているのかなどを通じて、こどもたちの視点に立った居場所づくりの視点や理念等を取りまとめることを目的とする。

日時

第5回こどもの居場所部会内 7月31日（月）16時～18時実施

対象

小学校1年生～30歳程度までのこども・若者（計23名）
居場所がある、なしに関わらない/障害等の特別なニーズを持つこども・若者を含む

ヒアリングを実施する ファシリテータ

- ・こどもの居場所部会の委員から選定したファシリテーター
- ・こども若者★いけんぷらすから選定したファシリテーターの2名を配置

ヒアリング 内容

自分にとって居場所だと感じる場や人などはどこか？
また、それは自分にとってどんな存在か？など、こども・若者がどこに居場所を感じ、その居場所に何を求めているのか？など

ヒアリング後の プロセスについて

ヒアリングした内容をまとめ、こども・若者に発言内容に誤りがないか、当日は言えなかったが、追加での意見はあるかを確認。再度寄せられた追加・修正の意見を踏まえて、概要資料としてまとめた。

こどもヒアリング概要「居場所づくりへの視点に関する意見について」

その場を居場所だと感じる要素について

- (ア) 親しい人とのつながり、安心・信頼関係
 - ・家（実家、祖母の家）
 - ・SNS、オンライン上の繋がり
 - ・話を聞いてくれて、ダメなことはダメと言ってくれる大人
 - ・放課後等デイサービス
- (イ) 好きなもの・ひとがある・いる、好きなことができる
（楽しいと感じられる）
 - ・習い事
 - ・本屋
 - ・推し（のグッズ）があるところ、推し活の時間
 - ・友達がいるところ（学校、部活、公園）
 - ・ゲーム
- (ウ) 落ち着ける
 - ・自分の部屋
 - ・図書館
 - ・トイレ
 - ・行きつけの店
- (エ) だれかと交流ができる
 - ・NPO法人が運営する中高生向けの居場所
 - ・課外活動
 - ・ボランティア先
 - ・オンライン、SNS
 - ・バー
 - ・こども家庭庁（いけんひろば）
- (オ) 一人になれる場所
 - ・人に見られずに泣けたり、気持ちのリセットができる

その場所に行く・利用するようになったきっかけについて

- (ア) 知ってる人から
 - ・友人やボランティア、知っている大人からの紹介
 - ・同じ趣味の人
 - ・有名人がメディアで紹介していた
- (イ) 自分で探した
 - ・インターネットで探した（「居場所」というワードで探すと胡散臭い）
 - ・歩いていて見つけた
 - ・対象が合っていた
- (ウ) その他
 - ・コロナの影響で一人になれる場所が限定された

その場所での過ごし方などについて

- (ア) その場での過ごし方
 - ・ダンス、バスケットボール、しゃべる
 - ・SNSの投稿を見る（書き込むのは怖さもある）
 - ・推し活
- (イ) その場にいるときの感情
 - ・安心できる、楽しい
 - ・自由（行きたい時に行けて、やりたいことができる）
 - ・自分が自分として見てもらえる、自分がいて良かったと思える
 - ・居心地が良い
- (ウ) その場から受ける影響
 - ・一人になれるので気持ちの整理ができる
 - ・自分の存在意義が感じられる
 - ・自分の知らない情報が得られ、気づきがある

その場において、自分の意見を言いやすいと感じる場面について

- (ア) 意見を聴く環境が整備されている
 - ・スクールカウンセラーがいる
 - ・優しく、話を聞いてくれるスタッフ、大人がいる
 - ・リラックスできる環境（理解してくれる家族やペットがいること）
- (イ) 境遇や趣味などに共通性を感じる
 - ・部活、自分のことを分かってくれる人がいる
 - ・やりたいこと、したいことを共有できる人の存在
- (ウ) その他
 - ・SNSのアカウントを分けている
 - ・向こうから話しかけてくれる

こどもヒアリング概要「居場所づくりへの視点に関する意見について」

居場所への期待・要望について

- (ア) 選択肢があること、だれでも見つけられること
 - ・居場所を選べること（場所、目的）たくさんあることで逃げ道ができる
 - ・静かな部屋と騒げる部屋が選べるようにしてほしい
 - ・一人でいる時間も大切にしながら、時には友達と一緒にいることが可能
- (イ) 自由であること、自主性が保たれていること
 - ・子どもだけで集まれる場所がほしい（親が入ってこれない）
 - ・いつまでいるかは自分で決めたい（ずっといたい）
 - ・自分で居場所を作りたい
 - ・一人でいられること
- (ウ) 本音を話せること
 - ・秘密を言える
 - ・愚痴を聞いてくれる（その上で、良いことを言ってくれる）
 - ・こども家庭庁（いけんひろば）
 - ・定期的に同じ思いを持った人に会いたい
- (エ) 大人がいること
 - ・適度な距離感（干渉しすぎない）
 - ・上下関係がない（友達のような存在、SNSでやり取りできる）
 - ・怒らない（注意とは違う）
 - ・綺麗ごとばかり言わず、共感して、寄り添ってくれる
 - ・普段は見守りながら、いざという時には手助けやアドバイスをしてくれる
 - ・こどもの方向性を決めつけない（否定しない）
- (オ) 友人・仲間がいること
 - ・同年代の人がいること
 - ・好きな人（友達、家族、恋人等）、好きなもの、好きなことがあること
- (カ) ありのままの自分、私が私らしくいられること
 - ・本当の自分を隠さずに、自分らしくいられること、振舞えること

居場所がない、なくなったと感じるときについて

- (ア) 人間関係によるもの
 - ・自分の存在意義を、自分にも他人にも見つけられないとき
 - ・周りの目が気になるとき（期待される振舞いをしなくてはいけない）
 - ・自分の意見を反対されたり、話を遮られたりしたとき
 - ・苦手な人が、同じ場に来た時（同じクラスになったとき）
 - ・家、学校以外で人と関わることがあるかどうかで変わる
 - ・親が不機嫌でこどもにあたる時
- (イ) ルールの存在によるもの
 - ・「～しなければならない」が多かった
- (ウ) その場に内在する制限や限界によるもの
 - ・その居場所に終わりがあって、出なくては（卒業しなくては）ならなかった
 - ・別の人が居場所を占拠していたとき
 - ・転校や編入などの変化による時
- (エ) なんらかのタイミングによるもの
 - ・ふいに、自分の存在意義が感じられなくなったとき
- (オ) 自分を偽っているとき
 - ・ありのままの自分を出せず、仮面をかぶって振舞っているとき

こどもヒアリング概要「居場所への行きやすさ、利用のしやすさにつながる意見について」

行き(利用し)たいけれど、行け(利用でき)ない場所について

(ア) 物理的な要因

- ・遠方にある（徒歩で15分程度）
- ・地方だと、そもそもあまり行く場所がない

(イ) 人間関係の要因

- ・苦手な人がいる
- ・知っている人がいない
- ・その居場所が自分の年代が行くイメージがない

(ウ) 情報不足によるもの

- ・そこに自分が行っていいのかわからない
- ・家や学校では第三の居場所を教えてくれない
- ・そこで何をしているのかわからない

(エ) 制度的側面によるもの

- ・（近くても）校区外に出てはいけない
- ・イベントの参加資格が地域の人のみ

(オ) 自身の問題によるもの

- ・行きたくない時がある
- ・勇気が出ない

行き(利用し)やすくなるために求めることについて

(ア) 身近にあること

- ・近くにある（校区内にある）
- ・こどもだけが行ける
- ・誰でも行ける（お金がかからない）
- ・既存の居場所に予算を投入して、持続させてほしい
- ・居場所に行くことが「特別なことでない」「身近なところ」というメッセージ

(イ) 積極的な広報活動

- ・こどもや利用者（生活困窮家庭、障害のある人など）に届く情報発信
- ・その居場所に行ってみてどうだったという体験者の声をきたい
- ・こども家庭庁や自治体が宣伝してくれると行きやすい
- ・SNSの有効活用
- ・目に見えにくい障害やLGBTQ等が自分の個性としてポジティブに捉えられるように、官・民・学などで伝えてほしい
- ・虐待や自死の報道でメディアは相談先を紹介するが、居場所も紹介してほしい

(ウ) 人間関係に関連すること

- ・同年代や同じ境遇の人がいること、又は違う年代、異なる環境の人がいること
- ・同じ関心事で話したり、楽しんだりできること。そうした人と出会うきっかけ、イベント
- ・自分一人で落ち着ける又は信頼できる親密な人だけの空間
- ・自分の意思で、一人になったり、誰かと何かと組めたりできること
- ・いじめがないこと
- ・見守ってくれる大人がいること（トラブルの際は介入してくれる）
- ・小さな孤独・孤立の解消をしていく

(エ) 環境面の充実に関連すること

- ・専門的な機材がある、専門的知識（博識）がある人がいること
- ・利用できる選択肢を増やしてほしい
- ・いただけられるようにしてほしい
- ・なんでも頼ってくれるAI